

市長への手紙 ③4

市で回収してほしい 発泡スチロール 製の食品トレー

発泡スチロール製の食品トレーは近くのスーパーに持って行って処理してしまいが、家庭での保管場所が狭く、かさばるので困っています。市で回収してもらえませんか。50代 女性

《市長からの回答》

海老名市では、現在、缶類・びん類・紙類・布類やペットボトルを資源として回収していますが、食品トレーなどの廃プラスチック類については「燃えるごみ」として扱っています。これは、市がトレーを収集しても、資源化にあたり安定的に引き取る業者が定まっていなかったためです。

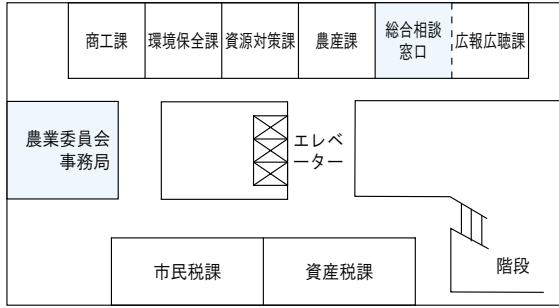
今秋にはりサイクルプラザで実施へ それまでは「店頭回収」でご協力を

廃プラスチックを減容・梱包等すれば、定められた業者に安定的に引き取ってもらえるようになります。市では、現在建設中のリサイクルプラザに食品トレーや廃プラスチックの回収に必要な減容・梱包等の機械設備を設置することになっていきますので、設備が整う今年秋ごろから分別回収を実施したいと考えております。それまでの間は、食品トレー等については、スーパー等の店頭回収に出されるなどのご協力をいただければ幸いです。

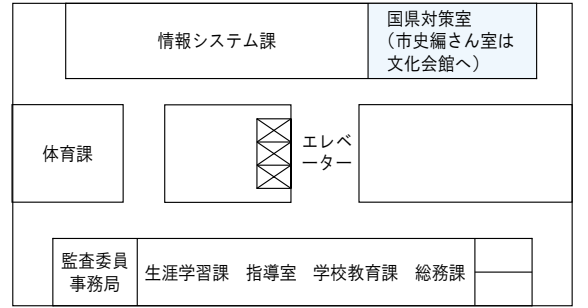
お問い合わせ
広報広聴課(内274)

「みなさんの声」毎月15日号で掲載

(庁舎2階配置図)



(庁舎5階配置図)



4月から市役所事務室を配置換え

市では、4月1日に次のとおり市庁舎事務室の配置換えを行います(上図参照)。
①2階の市民相談室を拡充、農業委員会事務局を同階西側へ
②2階の国県対策室を5階北側へ
③5階の市史編さん室を文化会館内へ
■ 財政課(内326)。

市民相談室を拡充
市史編さん室は
文化会館へ移る

音楽会会場で合唱グループの発表



子どもの視点に感動 展示コーナーで身近な“発見”

暖かな春の会場へ
2月25日、「はつはる祭」という名にふさわしい、2月にしては暖かな天気恵まれて、私は春を感じながら会場となった青少年会館に到着しました。すでに会場はたくさんの人でにぎわいをみせており、早速私もパンフレットを片手に詮索を開始。
さまざま催し物…
「はつはる祭」とは普段青少年会館を利用している団体の方々によって主催されているものです。プラスチックやフルートや大正琴などによる演奏や合唱な

広報モニター・レポート

2月24日、25日に青少年会館で「はつはる祭」が開催されました。子どもから大人まで楽しめる催しとあって、来場者は2日間でおよそ2500人。家族連れなどで大盛況でした。この模様を広報モニターの菊地洋子さんにレポートしてもらいました。



鉄道模型に見入る菊地モニター

はつはる祭大盛況でした



北分署に最新鋭消防車導入 消火や救助活動を迅速確実に

市では、建物の密集化、高層化などに対応するため、消防署北分署に最新鋭の消防ポンプ自動車=写真=を導入しました。電動ホースカー、自動揚水装置など、各種災害に対応できる資機材を装備して、消火や救助活動を迅速確実に行うことができます。

消防署(☎231・0355)。

海老名の子どものたちが、自分自身で身近なことを調べることで新しい発見をしたり、地域のひととのコミュニケーションをしたりすることで、住んでいるまちの良さを感じてもらおうことを目的としているのです。河原口の生き物ウォッチングや東柏ヶ谷三丁目ペットマップなど、子どもたちの手によって作成されたものが展示されていました。私たちが普段身近すぎて気付かないもの、気付いていても決まった視点でしか見られないものを、子どもたちが違った視点でとらえ、新たに見つめ直している姿に感動しました。これを機会に、私も身近なものをもっと見つめ直そうと思いました。(菊地洋子)



プラスチックの演奏



ひな祭りクラフトコーナー



お好み焼きの模擬店

催し物が行われていて、1日中楽しめます。
鉄道模型に似顔絵も
鉄道模型に感心したり、似顔

あぜみち



3月20日の「春分の日」について記事を書くことになり、そのことについて調べたことを記してみたいと思います。この日は戦前「春季皇霊祭」という名で祝日とされ、また

何気ない祝日「春分の日」を再認識

古事記や日本書紀にもその面影が記されているようです。春分は暦の上で、二十四節(太陽年を24等分して季節を示すのに用いる語)や「七十二候(旧暦で時候の変化を示したもの)のひとつとして、また、春分の日趣旨は「自然をたたえ、生物を慈しむ」ことだそうです。普段何気ない祝日も、非常に重要な意味合いが込められていることを再認識し、この日を年度のひと区切りとして、気持ちを切り替えて新年度に臨んでいこうと思います。国分北在住・下園直人 広報モニター